

# STYLING

VOL.88  
GMUND  
SINCE 1829~

●【グムンド】

Photo/Tomoaki Tsuruda(WPP)

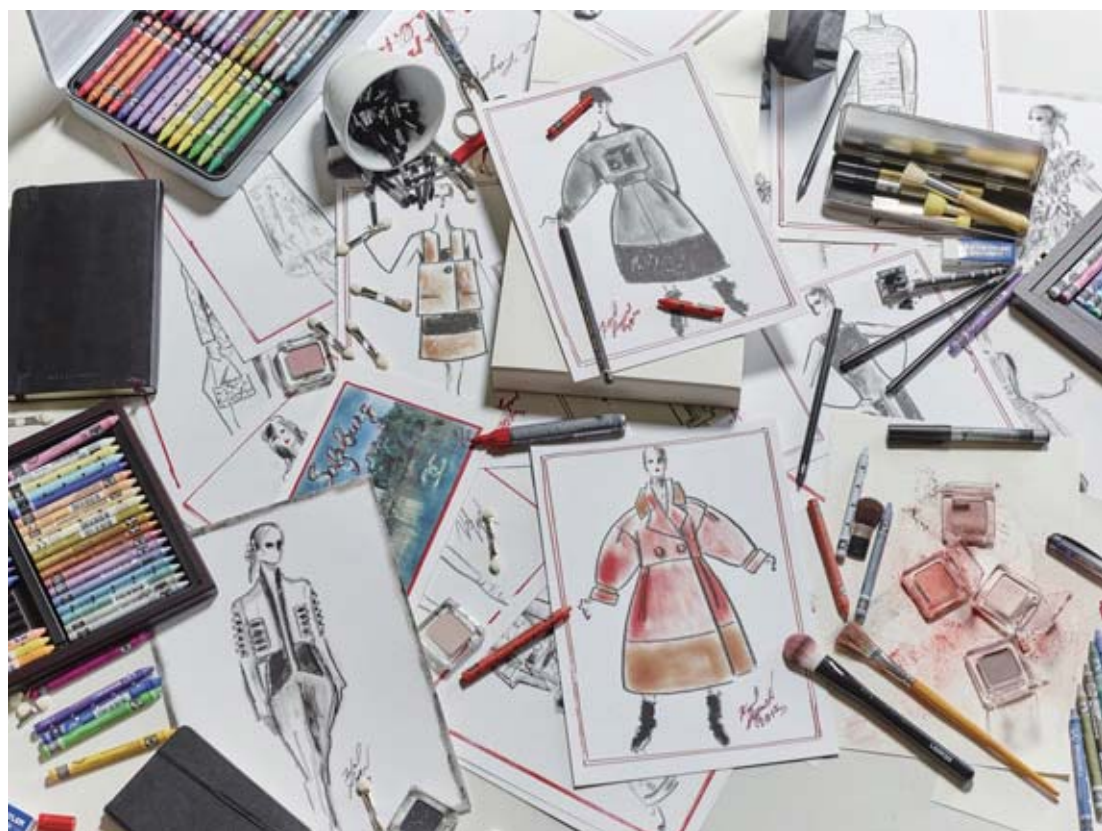
GMUND

Text/Teruhiko Doi(WPP)

## MONO



世界史の授業で学んだ、古代の紙の発祥は古代エジプトのパピルスであるということ。しかしそれはパピルス草そのものを縦横に重ねただけのものであり、今日の紙、つまり「製紙」という技術に照らし合わせれば紙の代用品であったにすぎない。製紙された「紙」の発祥は産業革命後のことだ。



by Karl Lagerfeld

2008年の北京オリンピック開会式を覚えてるだろうか？中国の数ある発明の中でも火薬・印刷・羅針盤の三大発明に匹敵する「紙」がファイチャーされていた。紙は知識や情報を記録するだけではなく、時間を超えてそれらを共有できるツールとして、人類の発展の歴史にとつて欠かせない存在である。偉大なる発明品であることは疑いようのない事実だ。紙は中国で発明されたものだが、それを「製紙」として技術化したのは、19世紀のドイツ人ケラー。木材を機械ですり潰してパルプを作る方法を考案した人物である。現在日常的に使われる「洋紙」は、このケラーの発明から始まった。そして、同じドイツにいま、大量生産・大量消費の紙とは異なる価値観で知られる高級製紙メーカーがある。それが「GMUND/グムンド」。BMW i8のカタログやあのアカデミー賞の授賞式にも採用されるほどの名品。それは、単なる「紙」の存在感を超えた、世界中のクリエイターたちがその品質と品格に、最大級の敬意を払っている、名品ブランドなのである。

# STYLING

## MONO

いまでこそ地球環境への配慮は、製造メーカーにとって欠かせないビジネスのミームであるが、グムンドは四半世紀以上前から環境技術に投資を続けてきた優良メーカー。独自の環境憲章を設け、製品すべてにリサイクルなどの環境技術の詳細を開示しているのである。



紙は使い捨てツールの代表的な存在。だが、そこに書かれた文字や印刷された情報によって、価値は劇的に変化する。紙が情報媒体であることに変わりはないが、グムンドは質の高い紙を供給することで、そこに知的な情報媒体としての存在感を与えることに成功した。紙を介したメッセージから、品格のある表情や性格が伝わるのだ。たとえば左ページの「Lakepaper」には



特許を取得した「ブロックカー」という白い用紙や、大人気の「エキストラ+」などがあり、その圧倒的な品質は、手にした指先から極上の触覚として伝わるはず。紙というものの価値を、改めて考えさせられるような製品なのである。また、同社は製紙業界における環境保護の製造工程を守り続ける姿勢を崩さない。時代の価値観から外れることのないスマートさも製品から伝わってくるはずだ。

## ラガーフェルドとグムンドの協業

カール・ラガーフェルドのドキュメンタリー「スケッチで語る人生」をご覧になっただろうか？ 真っ白な紙に向かって、幼少期の頃からの半生をひたすら絵に描きながら独白的に語る、素晴らしい作品だった。前ページの写真は、そのラガーフェルドによるグムンドの紙に描かれたスケッチである。彼はヴォーグ誌のインタビュで「私の表現はいつも手の下の紙に触れることから始まる」と語った。すべては紙から始まる。最初のデザインスケッチ、プレスのためのグラフィックデザイン、広告、カタログ、ウインドウ装飾など、あらゆる作業のスタートに紙がある。そう言い切るラガーフェルドは、グムンドの紙こそがその作業に置いて最高の役割を果たすと語った。2015年に行なわれた展示会で、グムンドの紙を使ったインスタレーションを展開、大きな注目を集めた。



展示されているオートクチュール・ガウンも、壁面のアーチ状の装飾もすべてグムンドの紙を使ったインスタレーション「ペーパー・パレス」、ドイツ・ボンで開催された。



# STYLING

## MONO

液晶でバックライトされた画面上のバーチャルな体験ではなく、実際に手にすることでそのクオリティやメッセージの重みを実感することができる。ラガーフェルドもオスカーの関係者も、こだわるのはその触覚なのだ。



GMUND



コーラー一族の初代、ルードヴィッヒ・アロイス・コーラー。1921年に工場内で事故に遭い死去した。1915年撮影。



創業から140年目の1968年に撮影された家族写真。右手前の水兵服の少年が、現代のフロリアン。

「GMUND/グムンド」の製紙工場では、およそ120名ほどのスタッフが働き、規模としては中規模のメーカーだが、高級な上質紙や非塗装紙、文房具を作るメーカーとして知られた存在。

これまでの歴史を見ても、同社は製紙業界において早くから先駆的なイノベーションを行ってきた。とくに1904年にコーラー一族の経営になつてから、世界初のカラーペーパーの生産を開始したブランドとして知られる。その後、徐々に工場規模を拡大していったが、悲しい世界大戦の時代は室内の明かりが漏れないための窓用の暗幕紙や、ガスマスク用のフィルターなどを生産して経営を続けたという。

「GMUND/グムンド」の製紙工場では、およそ120名ほどのスタッフが働き、規模としては中規模のメーカーだが、高級な上質紙や非塗装紙、文房具を作るメーカーとして知られた存在。

これまでの歴史を見ても、同社は製紙業界において早くから先駆的なイノベーションを行ってきた。とくに1904年にコーラー一族の経営になつてから、世界初のカラーペーパーの生産を開始したブランドとして知られる。その後、徐々に工場規模を拡大していったが、悲しい世界大戦の時代は室内の明かりが漏れないための窓用の暗幕紙や、ガスマスク用のフィルターなどを生産して経営を続けたという。

紙は素材ではなく製品。世界のデザイナーも認めた名品『GMUND』

## 「オスカーペーパー」は文字通りアカデミー賞壇上の、あの紙

毎年、ハリウッドで繰り広げられる悲喜こもごものドラマ。映画人にとっての最高の栄誉であるオスカー像を手にする幸運は、すべて壇上のプレゼンターが手にする封筒の中に記されている。2つ折りされたゴールドの紙を開く瞬間の映像は世界中に配信されているが、あのゴールドの紙こそ、グムンドの「オスカーペーパー」である。最高の栄誉にふさわしいのは、最高級の紙だけだ。写真は2015年、第87回アカデミー賞授賞式でプレゼンターを務めたジュリー・アンドリュース。ちなみに、代表作「サウンド・オブ・ミュージック」でアルプス越えする電車は、ババリアアルプスを走る路線。



オスカーペーパーの封筒や台紙、便箋などは銀座伊東屋で販売されている。すべて一枚から購入することができる。



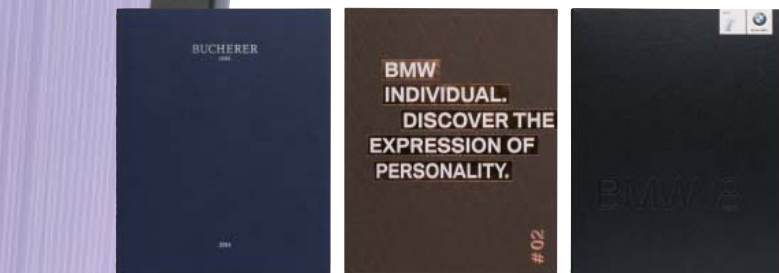
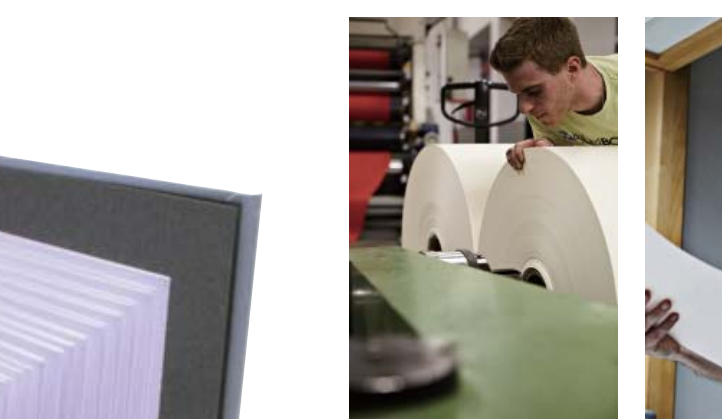
写真:ロイター/アフロ

戦後、1952年にルードヴィッヒ・マクシミリアン・コーラーが3代目社長として就任。上質紙の分野を広げて、戦争中に失われていた輸出ビジネスが復活した。1984年には現CEOのフロリアン・コーラーが役員に就任し、同社の上質紙をブランドイメージを備えたデザイナー・プロダクトへと変貌させた。1999年には、フライングペーパーを製造する「レイクペーパー社」を完全子会社として設立。2008年には、工場敷地内に高級消費財を扱うペーパーショップをオープン。2009年には、同社のフィロソフィでもある環境技術への投資の一環として、97%の効率を

誇る発電所を建設。その後も、製紙マシン電力供給の効率化、カッティング・システムなどのスピードや効率などを積極的に見直した。こうした生産現場における意識の高さは、紙と原材料である木材との関係を企業として真摯に捉えているから。ある意味ハイオマスの視点での活動であるが、同社が優秀な企業であるのは、そつとした環境技術を、製造の効率化や製品のさらなるクオリティ向上に繋げるアイデアを持ち続けているから。フロリアン・コーラーによれば「われわれにとってのメイドインジャーマニー」とは、伝統的な思考と環境への責任を誇り高く融合したものだ」という。

環境への責任と誇り……実際にドイツ人らしく、同時に尊敬すべきスタンスではないだろうか。

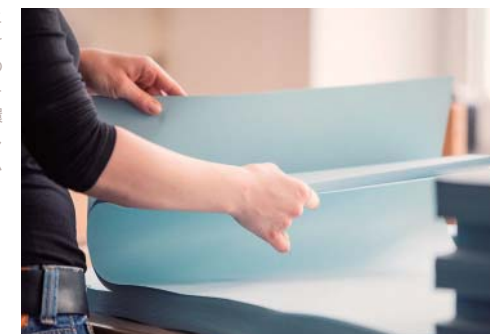
最高級の上質紙を生み出し続けているグムンドは、エレガントなノートやメモ用紙、上質な印刷カードなどを製品ラインナップとして展開している。また、左で紹介しているように、ハリウッドのオスカー受賞者の名前を入れる封筒に使用されるゴールドの紙「オスカーペーパー」も生産している。



グムンドの紙を使用している製品カタログ。左はスイスの高級時計店「BUCHERER」のもの。中央と右は「BMW i8」のカタログ。美しいエンボス加工、重厚感のある高級紙、車体色の再現性など、圧倒的なクオリティの印刷物となっている。

およそ2世紀にわたってバイエルンの田園地帯で創業を続けているグムンド社。昔ながらの職人技と現代のテクノロジーを融合し、非常に高い意識の環境責任を有する紙を生み出している。上質な紙の定義はグムンドの紙を触れば判る。

1883年に製造された初代のペーパー・マシン(製紙マシン)は、現在も現役として同社工場稼働している。ヨーロッパで使用されているペーパー・マシンの中では、最古のものなのだそう。企業の歴史を感じさせてくれる機械だ。



## GMUNDペーパーについてのメモ

- Lake Paper/透けない、裏写りしない紙として確固たる地位を築いた紙。2015年度のチャネルのポスターの他、エルメスやレイ・ヴィトンのカタログにも使用されている。世界特許取得。
- Gmund Arban/特殊な肌触りを実現した紙。その手触りはエッフェル塔やサンフランシスコのゴールデンゲートの鉄骨部と同じだと言われている。
- Cement Gray/ボルシェ911のカタログの外装紙として使用されている。
- Gmund Color's Metallic/絶対に指紋が付かない紙。高度な技術を持つ日本でも、作れないほどだと言われている。世界に冠たるGmundの製紙技術の凄さが解る紙。

# STYLING

**MONO**

グムンドの製品に関するお問い合わせは  
 セイホウ ☎052-934-7005  
[www.hakoya-world.jp](http://www.hakoya-world.jp)



↑左:グムンドのハイテク・テクニカルディレクターのステファン・トレスク、中央:代表のフロリアン・コーラー、右:コマーシャルディレクターのレイナー・シュスター。最新鋭の同社工場内で撮影。  
 ←グムンド本社社屋



Memory Book(ゲストブック)／結婚式やパーティ、各種イベントなどでよく見かける芳名帳も、グムンドだと圧倒的なクオリティ。二重に折られたページを採用しているため、油性マジックや筆書きでも、文字が裏写りすることはない。いつまでも大切にしておきたい思い出の一冊として選んで欲しい。価格4644円。◎銀座・伊東屋



Journal Tegernsee(カラーノート)／大切な旅の記録などを記しておきたいカラーペーパーを使ったノート。裏写りしない厚みと、優雅な手触りの紙質は、きっと思い通りに筆を走らせることができるだろう。蛍光オレンジ、蛍光イエローのほかに蛍光ピンクの紙もある。全44ページ。価格1944円(各色)。◎銀座・伊東屋



オスカーペーパー/アカデミー賞授賞式の壇上で、プレゼンターが開く受賞者の名が記されたゴールドのペーパーがこのシリーズ。特別な招待状やメッセージカードとして使いたい逸品。エンベロップは価格248円(一点)〜、レターシートは価格140円(一点)〜。◎銀座・伊東屋 <http://www.ito-ya.co.jp/ginza/>

